

令和4年度会津地区読書活動支援者育成事業研修

令和4年8月5日(金)会津若松市文化センターにおいて学校や図書館等で活躍する方々が専門的な知識や技能の向上を図ることを目的として表記の研修会を開催しました。

- 1 講義「震災語り部支援者養成について」 会津教育事務所 社会教育主事 石原 信太郎
東日本大震災から11年が経ち、記憶の風化が懸念されている。今必要とされている震災学習がなかなか進められない現状と課題について理解を求め、語り部サポーターとしての協力のお願いをした。風評被害に遭ったとしても、「黙らず、怒らず、正しい知識で話せる」子どもを育成したい。

- 2 講話・実演 「絵本のある心豊かな生活」



話して見つける本屋「石川屋」代表 石井 修一 氏
読書することが見直されている昨今の読書の現状から始まり、親子のコミュニケーションツールである絵本のもたらす影響について様々な例を挙げながらお話していただいた。絵や文章を想像力を働かせながら読み聞かせることは豊かな体験になる。そして、体験の共有により、読書が暮らしの一部となる。メディアの1つとして本を読むことは楽しく、価値のあるものとこれからも伝えていきたい。

- 3 講話・演習 「2011(平成23年)3.11東日本大震災を忘れない」



ばんげ読み聞かせの会 鶴見 美佐子 氏
「震災」をテーマとして、会津坂下町に非難された子どもたちへ読み聞かせボランティアの経験で感じたことをお話ししていただいた。楽しい本、元気が出る本を選んで読み聞かせたが、当時子どもたちに笑顔はなかった。既に十分頑張っているのに「がんばって」という言葉はかけられず、「風邪引かないでね」と伝えるのが精一杯であった。大切なことは、自分の命は自分で守ることや地域の安全安心はみんなで守ることである。今回、読み聞かせをしていただいた本は、本編だけでなく「あとがき」も非常に印象的な本であった。また、会津自然の家に訪れた子どもたちへ震災についての語り部を行った話もしていただいた。

【参加者の声】

- ・ 「語り部サポーター」という意識をどこかに持って、やることをやっていきたいと感じました。
- ・ 乳幼児期には、読んだ後にアクションを起こすことの大切さを感じました。
- ・ 絵本に対する愛情がいっぱい、熱意が伝わりました。
- ・ ただ読むだけでなく、その本が何を伝えようとしているのか分かるようにしたいです。
- ・ 実際に映像を見ながらの話しに引き込まれました。
- ・ 1分間でできる避難訓練等、よかったです。
- ・ 大雨による災害が発生したばかりで、改めて防災について考えるきっかけになりました。

【読書活動を盛り上げて行きましょう！】

- ・ 読み聞かせを始めて27年。今では、私の生活の一部です。これまでやってきて良かったとつくづく思います。
- ・ 同じ本でも年齢によって感じ方が変わるので、読み返すことが大切だと分かりました。
- ・ 学んだことを人に伝え、これからの読み聞かせにいかしたいと思います。
- ・ 3.11が近づくときと色々考えることがある。やはり10年以上が過ぎ、薄れているものが多くあることも実感しました。